

(様式1-2) 新規評価シート

事業名		県単道路改築		路河川名等	(一)町村白川村井(停)線					
事業毎の通番		10	市町村名	松本市	箇所名(ふりがな)	内田(うちだ)				
事業の位置づけ	県総合5か年計画における位置づけ	1-6 ① 交通安全対策の推進		SDGsの関連目標						
	関連する計画や重点施策	信州みちビジョン		関連する事業プロジェクト						
	現状と課題	(一)町村白川村井(停)線は、松本市南部に位置し、JR中央線村井駅および牛伏寺へのアクセス道路となっている。当該箇所は幅員狭小で、車両(特に緊急車両)の通行に支障をきたす状況となっている。								
	事業目的	当区間の道路整備により、安全で円滑な走行空間の確保を図る。								
事業概要	着手年度	2024年度(令和6年度)		事業期間	7年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)			
	完了年度(予定)	2030年度(令和12年度)					国庫	その他	県債	一般財源
	全体事業内容	道路改築工 延長0.6km 幅員5.5(7.0)m			300,000			270,000	30,000	
事業概要	 <p>至 村井駅 全体 L=600m L=5.5(7.0)m 平面図</p>									
	 <p>標準横断面図</p> <p>全幅 7.30 車道 2.75 車道 2.75 0.75 0.75</p>									
	主な受益対象		自動車:2,035台/日(計画交通量)							
事業効果	期待される効果	走行時間短縮、走行経費削減、交通事故削減 地域間交流の促進				費用便益比(B/C)	1.0			
	人口減少を踏まえた将来の活用見込み	沿線住民の生活道路であり、観光地へのアクセス道路にもなるため、将来にわたり利用される。								
計画熟度	地域からの要望経緯及び地域の関わり	令和元年から地元連合町会より継続して建設事務所に要望あり。								
	事業説明等の経緯	松本市を通じて道路事業の整備方針について説明し、合意形成が図られている。								
評価結果	所管課の意見	地域の重要な生活道路であり、道路改築により安全で円滑な走行空間を確保する必要があることから、事業着手が妥当と判断する。					妥当性評価※	優先度評価※		
	政策評価室の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。					○	3.5		
	県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—		評価の決定	事業着手			

※【妥当性評価】事業実施の妥当性を「○」「×」で判定 ※【優先度評価】事業着手の優先度を5点満点で評価(数字が大きいほど優先度が高い)




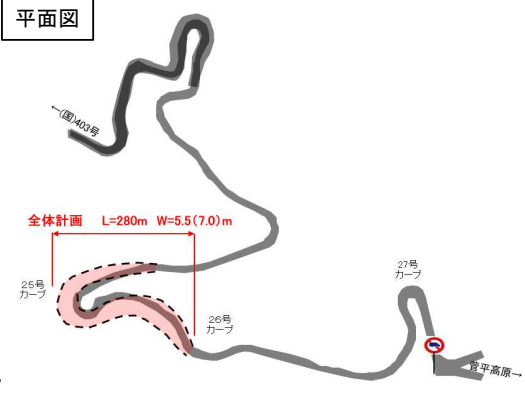

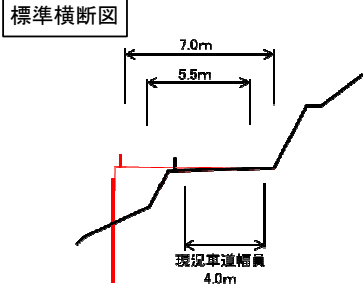
事業名		県単道路改築		路河川名等	(一)上今井洗馬(停)線					
事業毎の通番		11	市町村名	塩尻市	箇所名(ふりがな)	上組(かみくみ)				
事業の位置づけ	県総合5か年計画における位置づけ	1-6 ① 交通安全対策の推進		SDGsの関連目標						
	関連する計画や重点施策	信州みちビジョン		関連する事業プロジェクト						
	現状と課題	一般県道上今井洗馬停車場線は、塩尻市西部に位置し、国道19号、JR中央本線の洗馬駅へのアクセス道路となっている。当該箇所は幅員狭かつ急カーブで、車両(特に緊急車両)の通行に支障をきたす状況となっている。								
	事業目的	当区間の道路整備により、安全で円滑な走行空間の確保を図る。								
事業概要	着手年度	2024年度(令和6年度)		事業期間	6年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)			
	完了年度(予定)	2029年度(令和11年度)					国庫	その他	県債	一般財源
	全体事業内容	道路改築工 延長0.15km 幅員6.0(7.5)m			100,000			90,000	10,000	
事業概要	<p>平面図</p>  <p>標準横断面図</p> 									
										
	幅員狭小			急なカーブ						
事業効果	主な受益対象	自動車:1,114台/日								
	期待される効果	走行時間の短縮、走行経費の減少 地域間交流の促進				費用便益比(B/C) ※B=便益、C=費用	1.0			
	人口減少を踏まえた将来の活用見込み	地域の生活道路であり、幹線道路や駅へのアクセス道路でもあるため、将来にわたり利用される。								
計画熟度	地域からの要望経緯及び地域の関わり	平成29年度から地元区より継続して建設事務所長に要望がある。								
	事業説明等の経緯	市を通じて道路事業の整備方針について説明し、合意形成が図られている。								
評価結果	所管課の意見	地域の生活道路で幹線道路や駅へのアクセス道路でもあり、道路改築により安全で円滑な走行空間を確保する必要があることから、事業着手が妥当と判断する。					妥当性評価※	優先度評価※		
	政策評価室の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。					○	3.3		
	県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—		評価の決定	事業着手			

※【妥当性評価】事業実施の妥当性を「○」「×」で判定 ※【優先度評価】事業着手の優先度を5点満点で評価(数字が大きいほど優先度が高い)

(様式1-2) 新規評価シート

事業名		県単道路改築		路河川名等	(一) 姨捨(停)線				
事業毎の通番		12	市町村名	千曲市	箇所名(ふりがな)	山ノ神(やまのかみ)			
事業の位置づけ	県総合5か年計画における位置づけ	1-6 ① 交通安全対策の推進			SDGsの関連目標				
	関連する計画や重点施策	信州みちビジョン			関連する事業プロジェクト				
	現状と課題	当路線は、周辺に「日本三大車窓」に選ばれた姨捨駅や、国の「重要文化的景観」「日本の棚田百選」に選ばれた姨捨の棚田(田毎の月)等の観光地があり、多くの観光客が訪れるが、当該区間は幅員狭小であり安全な交通に支障をきたしている。							
	事業目的	当区間の道路整備により幅員狭小区間を解消し安全で円滑な走行空間を確保することで、姨捨駅周辺の観光地における誘客を促進し地域観光の活性化を図る。							
着手年度	2024年度(令和6年度)		事業期間	7年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)			
完了年度(予定)	2030年度(令和12年度)					国庫	その他	県債	一般財源
全体事業内容	道路改築工 延長0.3km 幅員5.5(7.0)m				250,000			225,000	25,000
事業概要	平面図								
									
								標準横断面図	
									
事業効果	主な受益対象	自動車:1,851台/日(計画交通量)							
	期待される効果	走行時間の短縮、走行経費の減少 産業・観光の振興				費用便益比(B/C) ※B=便益、C=費用	1.1		
	人口減少を踏まえた将来の活用見込み	産業・観光拠点へのアクセスを担う道路であり、将来にわたり利用される。							
計画熟度	地域からの要望経緯及び地域の関わり	千曲市から千曲建設事務所へ要望あり。							
	事業説明等の経緯	事業検討の実施について、地元区へ周知を行っている。							
評価結果	所管課の意見	姨捨駅周辺の観光地へのアクセスを担う道路であり、道路改築により安全で円滑な走行空間を確保する必要があることから、事業着手が妥当と判断する。						妥当性評価※	優先度評価※
	政策評価室の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。						○	3.5
	県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—		評価の決定	事業着手		

※【妥当性評価】事業実施の妥当性を「○」「×」で判定 ※【優先度評価】事業着手の優先度を5点満点で評価(数字が大きいほど優先度が高い)

事業名		県単道路改築		路河川名等	(主)長野菅平線					
事業毎の通番		13	市町村名	長野市	箇所名(ふりがな)	菅平下(すがだいらした)				
事業の位置づけ	県総合5か年計画における位置づけ	1-6 ① 交通安全対策の推進			SDGsの関連目標					
	関連する計画や重点施策	信州みちビジョン			関連する事業プロジェクト					
	現状と課題	主要地方道長野菅平線は、長野市から上田市に至る主要な幹線道路であり、長野方面から菅平高原へのアクセス道路としても重要な路線として利用されている。当該区間は、非常に急峻なため、急勾配かつ急カーブ箇所が多く、大型車車両は対向車線を越えて通行する状況が見受けられ、危険な状況である。また、当区間は大型車の通行規制、大雨による事前通行規制及び冬期閉鎖区間となっており、県の北信地域と東信地域との円滑な通行に支障が生じている。								
	事業目的	当区間の道路整備により課題を解消し、安全で円滑な走行空間の確保を図る。								
着手年度		2024年度(令和6年度)		事業期間	8年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)			
完了年度(予定)		2031年度(令和13年度)					国庫	その他	県債	一般財源
全体事業内容		道路改築工 延長0.28km 幅員5.5(7.0)m			500,000			450,000	50,000	
事業概要	    									
	現在の道路状況									
事業効果	主な受益対象	自動車:2,423台/日(計画交通量)								
	期待される効果	走行時間の短縮、走行経費の減少 地域間交流の促進				費用便益比(B/C) ※B=便益、C=費用	1.3			
	人口減少を踏まえた将来の活用見込み	北信地域と東信地域を結ぶ主要な幹線道路であり、産業・観光拠点へのアクセス道路でもあるため、将来にわたり利用される。								
計画熟度	地域からの要望経緯及び地域の関わり	「保科・菅平間道路改良促進委員会」による要望活動があり、毎年懸案箇所の改善要望が挙げられている。								
	事業説明等の経緯	地元説明会を実施し、道路事業の整備方針、整備手法について合意形成が図られている。								
評価結果	所管課の意見	北信地域と東信地域を結ぶ主要な幹線道路かつ産業・観光拠点へのアクセス道路であり、道路改築により安全で円滑な走行空間を確保する必要があることから、事業着手が妥当と判断する。						妥当性評価※	優先度評価※	
	政策評価室の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。						○	3.4	
	県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—			評価の決定	事業着手		

※【妥当性評価】事業実施の妥当性を「○」「×」で判定 ※【優先度評価】事業着手の優先度を5点満点で評価(数字が大きいほど優先度が高い)

事業名		県単道路改築		路河川名等	(一)小峰稲荷山線				
事業毎の通番		14	市町村名	長野市	箇所名(ふりがな)	高萩(たかはぎ)			
事業の位置づけ	県総合5か年計画における位置づけ	1-6 ① 交通安全対策の推進		SDGsの関連目標					
	関連する計画や重点施策	信州みちビジョン		関連する事業プロジェクト					
	現状と課題	(一)小峰稲荷山線は、長野市信州新町地区と千曲市桑原地区を結ぶ路線であり、長野地域南部の高萩地区、平清水地区、成上地区が信州新町方面へアクセスするための唯一の生活道路となっている。しかしながら、当該箇所は幅員狭小で、かつ、見通しが悪いため、交通事故の危険性が高く生活の支障となっている。							
	事業目的	当区間の道路整備により課題を解消し、快適で安全な道路空間の確保を図る。							
着手年度	2024年度(令和6年度)		事業期間	7年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)			
完了年度(予定)	2030年度(令和12年度)					国庫	その他	県債	一般財源
全体事業内容	道路改築工 延長0.24km 幅員4.0(6.0)m				150,000			135,000	15,000
事業概要			<p>平面図</p> 						
					<p>標準横断面図</p> 				
	現在の道路状況								
事業効果	主な受益対象	自動車:621台/日(計画交通量)							
	期待される効果	走行時間の短縮、走行経費の減少 地域間交流の促進				費用便益比(B/C) ※B=便益、C=費用	1.1		
	人口減少を踏まえた将来の活用見込み	地域の重要な生活道路であり、将来にわたり利用される。また、計画交通量には将来推計値を用い、人口減少を見据えた道路計画としている。							
計画熟度	地域からの要望経緯及び地域の関わり	「信更・大岡・新町間整備促進期成同盟会」より要望活動があり、毎年懸案箇所の改善要望が挙げられている。							
	事業説明等の経緯	地元説明会を実施し、道路事業の整備方針について合意形成が図られている。							
評価結果	所管課の意見	地域の重要な生活道路であり、道路改築により安全で円滑な走行空間を確保する必要があることから、事業着手が妥当と判断する						妥当性評価※	優先度評価※
	政策評価室の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。						○	3.6
	県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—		評価の決定	事業着手		




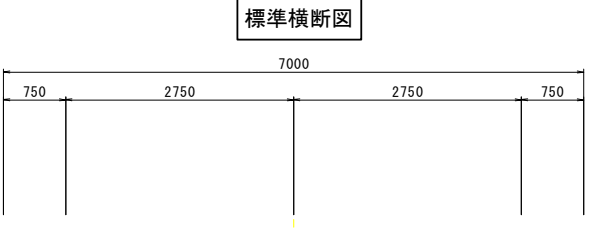
※【妥当性評価】事業実施の妥当性を「○」「×」で判定 ※【優先度評価】事業着手の優先度を5点満点で評価(数字が大きいほど優先度が高い)

事業名		県単道路改築		路河川名等	(一)小松原川中島(停)線					
事業毎の通番		15	市町村名	長野市	箇所名(ふりがな)	四ツ屋(よつや)				
事業の位置づけ	県総合5か年計画における位置づけ	1-6 ① 交通安全対策の推進			SDGsの関連目標					
	関連する計画や重点施策	信州みちビジョン			関連する事業プロジェクト					
	現状と課題	一般県道小松原川中島停車場線は、JR川中島駅へ通じる地域の重要な生活道路である。当該箇所は、幅員狭小で、複数の道路が複雑に交差しており、地域でも通行に注意が必要な箇所として知られており、生活の支障となっている。								
	事業目的	当区間の道路整備より、幅員狭小区間の解消および交差点部の視距を確保し、安全で円滑な走行空間の確保を図りたい。								
事業概要	着手年度	2024年度(令和6年度)		事業期間	7年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)			
	完了年度(予定)	2030年度(令和12年度)					国庫	その他	県債	一般財源
	全体事業内容	道路改築工 延長0.2km 幅員6.0(12.0)m				600,000			540,000	60,000
事業概要	平面図									
										
			標準横断面図							
	道路の交差状況①		道路の交差状況②							
事業効果	主な受益対象	自動車:2,700台/日(計画交通量)								
	期待される効果	走行時間の短縮、走行経費の減少 地域間交流の促進				費用便益比(B/C) ※B=便益、C=費用	1.9			
	人口減少を踏まえた将来の活用見込み	地域の重要な生活道路であり、将来にわたり利用される。また、計画交通量には将来推計値を用い、人口減少を見据えた道路計画としている。								
計画熟度	地域からの要望経緯及び地域の関わり	毎年、地元地区から懸案箇所の改善要望が建設事務所長へ挙げられている。								
	事業説明等の経緯	R4年 所内ワークショップによる改良検討案について、地区役員へ説明。 R5年 交差点改良の概略検討結果を地区役員へ説明。								
評価結果	所管課の意見	地域の重要な生活道路であるが、当区間は複雑な交差点形状で危険性が高く、道路改築により安全で円滑な走行空間を確保する必要があることから、事業着手が妥当と判断する。						妥当性評価※	優先度評価※	
	政策評価室の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。						○	3.5	
	県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—		評価の決定	事業着手			

※【妥当性評価】事業実施の妥当性を「○」「×」で判定 ※【優先度評価】事業着手の優先度を5点満点で評価(数字が大きいほど優先度が高い)

事業名		県単道路改築		路河川名等	(一)野村上牟礼(停)線				
事業毎の通番		16	市町村名	飯綱町	箇所名(ふりがな)	中宿バイパス(なかじゅくばいぱす)			
事業の位置づけ	県総合5か年計画における位置づけ	1-6 ①交通安全対策の推進		SDGsの関連目標					
	関連する計画や重点施策	信州みちビジョン		関連する事業プロジェクト					
	現状と課題	一般県道野村上牟礼停車場線は、主要地方道長野信濃線から牟礼駅を結ぶ路線であり、地域住民にとって長野市街地や牟礼駅方面へ向かう重要な生活道路となっている。 当該区間は、民家密集のため幅員狭小で通行性が悪く、冬期は凍結によるスリップ事故の危険性が高い。特に大型車や定期バスのすれ違いは困難な状況にある。							
	事業目的	当区間の道路整備により、安全で円滑な走行空間の確保を図る。							
着手年度	2024年度(令和6年度)		事業期間	10年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)			
完了年度(予定)	2033年度(令和15年度)					国庫	その他	県債	一般財源
全体事業内容	道路築造工 延長0.6km 幅員5.5(7.0)m				400,000			360,000	40,000
事業概要	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 25%;"> <p>① </p> <p>バイパス予定地の状況(畑)</p> </div> <div style="width: 25%;"> <p>② </p> <p>現在の県道の状況(幅員 約5.0m)</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>標準横断面図</p>  <p>現況: 4.0(5.0)~5.0(6.0)</p> </div> </div>								
	主な受益対象	自動車:2,170台/日(計画交通量)							
	期待される効果	走行時間の短縮、走行経費の減少 地域間交流の促進				費用便益比(B/C) ※B=便益、C=費用	1.2		
人口減少を踏まえた将来の活用見込み	地域の重要な生活道路であり、将来にわたり利用される。また、計画交通量には将来推計値を用い、人口減少を見据えた道路計画としている。								
計画熟度	地域からの要望経緯及び地域の関わり	地元地区で中宿バイパス建設期成同盟会を組織しており、毎年、建設事務所長へ要望がある。また、県と同盟会が協働で地元調整を行っている。							
	事業説明等の経緯	R4 期成同盟会役員を対象とした計画説明会を実施し、事業方針及び概ねの整備手法について合意形成が図られている。							
評価結果	所管課の意見	地域の重要な生活道路であり、道路改築により安全で円滑な走行空間を確保する必要があることから、事業着手が妥当と判断する。						妥当性評価※	優先度評価※
	政策評価室の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。						○	3.7
	県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—		評価の決定	事業着手		

※【妥当性評価】事業実施の妥当性を「○」「×」で判定 ※【優先度評価】事業着手の優先度を5点満点で評価(数字が大きいほど優先度が高い)

事業名		県単道路改築		路河川名等	(国)406号					
事業毎の通番		17	市町村名	小川村	箇所名(ふりがな)	藤口(ふじぐち)				
事業の位置づけ	県総合5か年計画における位置づけ	1-6 ① 交通安全対策の推進			SDGsの関連目標					
	関連する計画や重点施策	信州みちビジョン			関連する事業プロジェクト					
	現状と課題	一般国道406号は長野県大町市から群馬県高崎市に至る幹線道路である。当該区間は局所的に幅員が狭く車輛(特に大型車)の通行に支障をきたしており交通の難所となっている。								
	事業目的	当区間の道路整備により局所的幅員狭小区間を解消し、道路利用者の安全性、利便性の向上を図る。								
事業概要	着手年度	2024年度(令和6年度)		事業期間	5年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)			
	完了年度(予定)	2028年度(令和10年度)					国庫	その他	県債	一般財源
	全体事業内容	道路改築工 延長0.12km 幅員5.5(7.0)m				150,000				150,000
事業概要										
	 <p>現況車道幅員3.6m</p>									
事業効果	主な受益対象	自動車:1,657台/日(計画交通量)								
	期待される効果	走行時間の短縮、走行経費の減少 地域間交流の促進				費用便益比(B/C) ※B=便益、C=費用	1.5			
	人口減少を踏まえた将来の活用見込み	幹線道路であり将来にわたり利用される。計画交通量には将来推計値を用い、人口減少を見据えた道路計画としている。								
計画熟度	地域からの要望経緯及び地域の関わり	一般国道406号整備促進期成同盟会より毎年部長事要望あり。								
	事業説明等の経緯	R5.9月 地元及び村より要望があり、R5.10月 村へ道路事業の整備方針等について説明。								
評価結果	所管課の意見	大北地域と長野地域を結ぶ幹線道路であり、道路改築により安全で円滑な走行空間を確保する必要があることから、事業着手が妥当と判断する。						妥当性評価※	優先度評価※	
	政策評価室の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。						○	3.1	
	県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—		評価の決定	事業着手			

※【妥当性評価】事業実施の妥当性を「○」「×」で判定 ※【優先度評価】事業着手の優先度を5点満点で評価(数字が大きいほど優先度が高い)

事業名		県単道路改築		路河川名等	(一)中野小布施線					
事業毎の通番		18	市町村名	中野市	箇所名(ふりがな)	西町(にしまち)				
事業の位置づけ	県総合5か年計画における位置づけ	1-6 ①交通安全対策の推進		SDGsの関連目標						
	関連する計画や重点施策	信州みちビジョン 通学路交通安全プログラム		関連する事業プロジェクト	中野市都市計画マスタープラン					
	現状と課題	本路線は市中心部と郊外を結ぶ道路である。当該区間は、地域の基幹病院である北信総合病院への通院や緊急車両の通行が集中する重要な通行区間の交差点部であり、長野電鉄信州中野駅へのアクセス路、さらに通学路指定もされているにもかかわらず、幅員が狭小で歩道や待場が未整備であり、家屋等も近接しているため、視距も悪く大変危険な交差点となっている。								
	事業目的	当区間の整備により、安全で円滑な走行空間の確保と歩行者の安全性向上を図る。								
着手年度		2024年度(令和6年度)		事業期間	6年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)			
完了年度(予定)		2029年度(令和11年度)					国庫	その他	県債	一般財源
全体事業内容		道路改築工 延長0.06km 幅員6.0(10.0)m			500,000			450,000	50,000	
事業概要			現道(交差点)状況				現道状況			
			標準横断面図							
	主な受益対象		自動車:9,943台/日(計画交通量)							
事業効果	期待される効果	走行時間の短縮、走行経費の減少 通行車両、歩行者の安全確保 地域間交流の促進			費用便益比(B/C) ※B=便益、C=費用	1.5				
	人口減少を踏まえた将来の活用見込み	中野市街地中心部の公共機関や病院、鉄道駅等へのアクセス道路であり将来にわたり利用される。								
計画熟度	地域からの要望経緯及び地域の関わり	中野市長、教育委員会やPTA等の学校関係者より北信建設事務所長へ要望がある。								
	事業説明等の経緯	隣接して実施中の街路事業とともに説明会を実施し、道路の整備方針について合意形成が図られている。								
評価結果	所管課の意見	中野市街地中心部の病院、鉄道駅等へのアクセス道路であり、道路改築により安全で円滑な走行空間の確保及び歩行者の安全性の向上を図る必要があることから、事業着手が妥当と判断する。						妥当性評価※	優先度評価※	
	政策評価室の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。						○	3.7	
	県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—		評価の決定	事業着手			

※【妥当性評価】事業実施の妥当性を「○」「×」で判定 ※【優先度評価】事業着手の優先度を5点満点で評価(数字が大きいほど優先度が高い)